



各 位

平成 21 年 5 月 12 日

会社名 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス
代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
武藤 信一
(コード番号 3099 東証第 1 部)
問合せ先 管理本部総務部コーポレートコミュニケーショングループ 長
鈴木 康弘
Tel03-5843-5115

株式会社伊勢丹における構造改革の実施について

当社は、本日開催の取締役会において、当社完全子会社である株式会社伊勢丹（以下「伊勢丹」）の構造改革の一環として伊勢丹吉祥寺店の営業終了を決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 伊勢丹吉祥寺店の営業終了について

当社は平成 20 年 4 月に伊勢丹と株式会社三越の経営統合により設立され、「三越伊勢丹グループ企業理念」に掲げる「世界随一の小売サービス業グループ」を実現するべく、投資計画、保有資産・事業の見直しを行いながら、選択と集中による収益のさらなる向上を進めております。

伊勢丹においてもこれまでにない水準での経費削減を図ることで収益性の確保を図ってまいりましたが、取り巻く経済環境は更に厳しさを増したため、より一層の経営資源の選択と集中を図ることで収益力向上を目指すべきであると判断し、平成 22 年 3 月上旬（予定）をもって伊勢丹吉祥寺店の営業を終了することを決議いたしました。

伊勢丹吉祥寺店をご愛顧頂きましたお客様、並びに、地域の皆様にはご迷惑、ご不便をおかけすることになり、深くお詫び申し上げますとともに、長年のご愛顧を心より御礼申し上げます。来年の閉店後につきましては、伊勢丹新宿本店をはじめとする他店舗をもって、吉祥寺エリアのお客さまに対してこれまで以上にご満足頂ける商品とサービスをご提供することに努めてまいります。

2. 今回の判断に至る経緯について

伊勢丹吉祥寺店は、昭和 46 年に現在の本館部分を开店し、続く昭和 47 年に現在の館部分を増床致しました。同店は、吉祥寺エリアにおける地域密着を図る一方で、伊勢丹新宿本店との距離が近いことから本店の補完的な機能を求められるという、2つの要素をもって営業してまいりました。その後、当該エリア内に同店を凌ぐ大型の競合他店が進出してくると共に、新宿・渋谷などとのエリア間競争も激しくなるなど、厳しい競合環境におかれておりました。

このような環境の下、伊勢丹としては最大限の営業努力を続けてまいりましたが、同店の売上規模では当社グループの利益に貢献するには至らず、また、近年はこれまでにないレベルでの経費削減にも取り組んでまいりましたが、抜本的な営業力の強化などがなければ収益性の確保は難しい状況にありました。そして、昨年来の消費全体の大幅な冷え込みを受け、同店に対する投資回収の見込みが立たないこととなり、経営資源の選択と集中により早期に当社グループの収益力向上を目指すべきであると判断し、平成22年3月上旬（予定）をもって営業を終了することといたしました。

3. 伊勢丹吉祥寺店の概要

(1) 店舗名	伊勢丹吉祥寺店
(2) 所在地	東京都武蔵野市吉祥寺本町1-11-5
(3) 沿革	昭和46（1971）年11月10日開店
(4) 店長	吉田 栄一
(5) 売場面積	20,758 m ²
(6) 売上高	174億3千2百万円（平成21年3月期）
(7) 勤務従業員数	415名（社員99名、有期雇用社員316名）2009年4月1日現在

4. 営業終了予定日

平成22年3月上旬（営業終了日が確定次第お知らせ致します）

5. 従業員の処遇

吉祥寺店に勤務する従業員のうち、同店のみを勤務地とする条件で雇用契約を結んでいる有期雇用社員（サムタイマー社員）については、営業終了時点で、他店舗などでの就業を希望する者に限り、通常通り必要人員及び適性をみて、再雇用を検討しております。また、吉祥寺店に勤務する従業員のうち、社員及び上記以外の有期雇用社員（メイト社員）については、同店の営業終了後、他店舗または他部門などへ配置転換することを予定しております。

尚、退職を希望する従業員に対しては、社員・メイト社員は既存の制度を適用し、サムタイマー社員については営業終了に伴う特例措置を設けることを検討しております。

6. 今後の見通しについて

平成22年3月期への影響については、確定次第お知らせ致します。なお、平成21年3月期は、吉祥寺店に関する構造改革損失として減損損失17億1百万円を計上しております。

以上